

登録コード:MH428300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	臨床技能演習【23M以降】 Objective Structured Clinical Examination		
担当教員	岩波 潤 上村 智子・務臺 均・佐賀里 昭・佐藤 正彬・田中 佐千恵		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	後期 月曜・1時限 月曜・2時限		
単位数、講義室	2 単位	保健学科 1 2 1 講義室 保健学科診断訓練実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・作業		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		作業療法士に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を学内演習を通して獲得して、さまざまな状況で活用できる。
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		社会で派生する多様な課題に対して、多領域に関わる作業療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、それらを支援するための制度や知識の獲得に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、作業療法評価学や作業療法治療学などの科目で学習した面接・検査・測定に関する知識と技術に基づいて、作業療法実践に必要な感染対策・面接・作業療法評価・日常生活動作支援に関する臨床技能について学び、獲得された臨床技能をOSCE（客観的臨床能力試験）にて評価する。 本科目は、2年次に学んだ「身体障害作業療法学実習」「精神障害作業療法学実習」「発達障害作業療法学実習」の知識を前提とし学んでいくことになる。そして本科目の内容は、4年次の総合臨床実習における重要な基礎知識となる。 本授業は、担当教員の医療機関等における作業療法士としての実務経験を活かして実習を行います。		
授業計画	診断訓練実習室または作業療法実習室にて、作業療法実践に必要な臨床技能の演習を行う。 ・4回の演習後にOSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）を実施する。この過程を3回繰り返す。 日程の詳細および課題については、資料を別途配布し説明する。 第1回(9月28日)：オリエンテーション、スタンダードプリコーション、コミュニケーションの基本、インテーク面接（田中、杉山） 第2回(10月5日)作業面接（田中、杉山） 第3回(10月14日水曜)：評価・介入（田中、杉山） 第4回(10月19日)：ペアでの個別練習（田中、杉山） 第5回(10月26日)：OSCE（客観的臨床能力試験） 第6回(11月2日)：発達領域：対象児との関わり方、家族面接（佐藤） 第7回(11月9日)：身体障害領域：評価手技（バイタルチェック、ROM-t、感覚検査、反射検査、ブルンストロームステージ）（務台） 第8回(11月16日)：身体障害領域：評価手技（MMT、脳神経検査、協調性検査、立位バランス検査）（務台） 第9回(11月26日木曜)：ペアでの個別練習（務台） 第10回(11月30日)：OSCE（客観的臨床能力試験） 第11回(12月7日)：基本動作（起き上がり、移乗）（岩波） 第12回(12月14日)：ADL：更衣（佐賀里） 第13回(12月21日)：基本動作（食事・ポジショニング）（上村） 第14回(1月4日)：ペアでの個別練習（岩波） 第15回(1月18日)：OSCE（客観的臨床能力試験） 第16回(1月25日)：全体フィードバックおよび復習・授業アンケート		
授業の進め方	本授業は、各回の担当教員からの配れる資料やe-ALPSに掲載されている動画に基づいて進めていきます。 授業計画に沿って講義・演習を行い、5回目（10/26）、10回目（11/30）、15回目（1/18）には客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）として実技試験を行います。		
テキスト、教材、参考書	各教員から配布される資料 ＜参考資料＞ 1）才藤 栄一（監修）：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版・金原出版、2020 2）才藤 栄一（監修）：PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版・金原出版、2022		
成績評価の方法	本科目は、授業内演習を通じた学習経験を重視しているため、原則として全授業への出席を成績評価の前提条件とする。計3回のOSCEの結果で評価する（合計100点）。		

成績評価の方法	本科目の最終成績は総計の60%以上を合格とします。 各回のOSCEでは演習で指導された各領域の臨床技能についての理解度および習得度を確認します。 各OSCEの様子については実施後にその場で教員よりFBを行います。
成績評価の基準	各回のOSCEに関して以下の基準で評価を行います。 秀：課題に対する具体的な対応を十分円滑に遂行することができる。（90点以上） 優：課題に対する具体的な対応を概ね円滑に遂行することができる。（80点以上） 良：課題に対する具体的な対応を基本的なレベルで遂行することができる。（70点以上） 可：課題に対する具体的な対応を最低限のレベルで遂行することができる。（60点以上）
事前事後学習の内容	< 事前学習 > 臨床技能演習にて取り組む課題について事前に提示するので予習をしてから授業に臨むこと。 < 事後学習 > 演習にて取り組んだ課題を实践できるように、知識・技能の復習に取り組むようにしてください。とくに、技能的な点については、学生同士でペアとなって、継続的に練習を行うようにしてください 本授業の単位修得には60時間の学習が必要なため、以下のような学習時間を必要とする。 授業時間45時間（3時間×15回）+ 自己学習時間15時間（1時間×15回）= 60時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	作業療法実践に必要な面接・評価・支援について理解を深めるとともに、学生同士で練習しながら技能の習得に努めてください。 質問への対応：岩波潤 iwanami@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎2階 岩波潤研究室